

経営比較分析表（令和2年度決算）

岡山県笠岡市 笠岡市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上~200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	ド訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
47,160	11,571	非該当	非該当	10 : 1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
126	68	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	194
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
60	39	99

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

- ①良質な医療の提供
- ②島しょ部（へき地）医療の対応
笠岡市の島しょ部にある6つの診療所のうち、白石島、真鍋島、六島の3つの診療所での診療を行っています。
- ③笠岡での災害時の拠点となる病院
- ④二次救急医療施設・救急告示病院
- ⑤新型コロナウイルス感染症患者の受入をはじめ総合的に対応している。
- ⑥将来にわたり地域医療および地域包括ケアシステム構築の一翼を担う病院

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医師不足によって年々患者数が減少し、さらに近年では新型コロナウイルス感染症の流行による患者数の減少（患者の受診控え）が大きく影響し、大幅な減収となった。特に、入院では、一般病床利用率が40%前後と低い状態が続いており、毎年2〜4億円の赤字を計上しています。

病院経営改善を目的に、民間事業者と業務委託契約し、近隣の病院や福祉施設などへの営業や施設基準の見直しなどを実施しています。また、新型コロナウイルス関係などの補助金を活用し、医療費用の財源を確保するとともに、医療外収益の獲得を積極的に行っています。

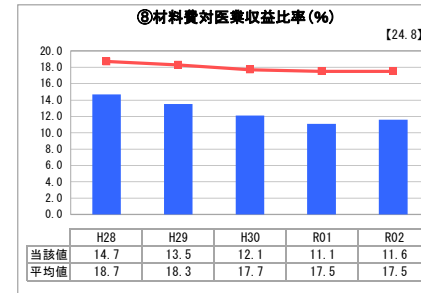
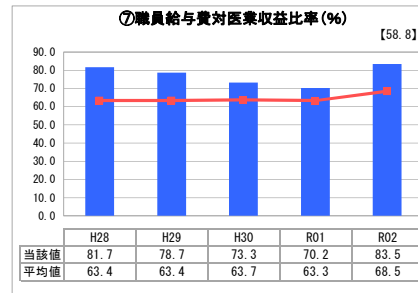
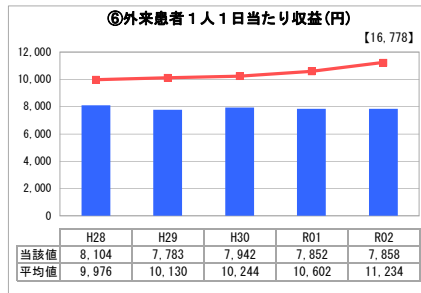
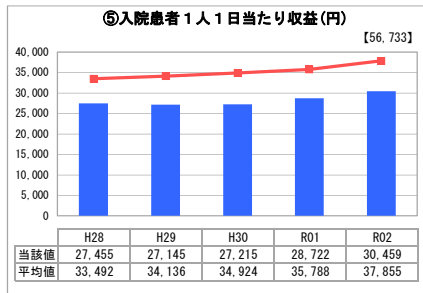
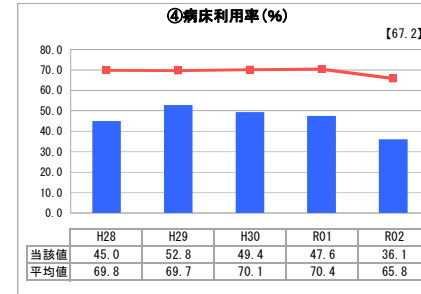
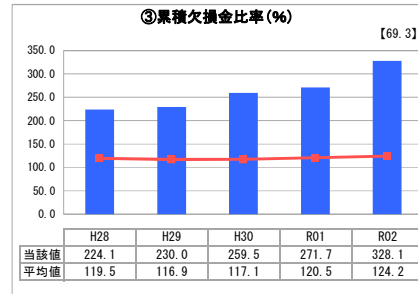
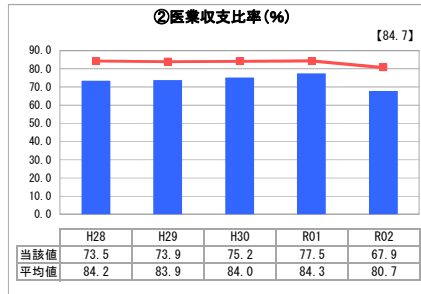
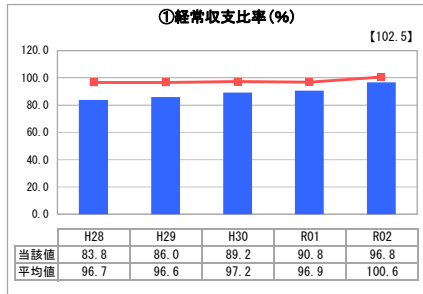
2. 老朽化の状況について

既存棟は昭和38年に建築してから50年以上、昭和56年に増築した建物も30年以上経過しており、施設設備の老朽化により、給排水管のトラブルや雨漏りが頻発し、診療に支障が生じています。特に既存棟は耐震補強の対応外で、撤去又は改築が必要とされています。また、増築した建物は、倒壊防止の補強工事が必要とされていますが、入院・外来患者の方々がいる状況の中で、補強工事ができない状態が続いています。現在、新病院の建設について検討しているところです。

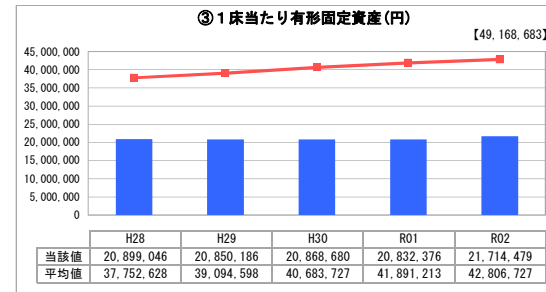
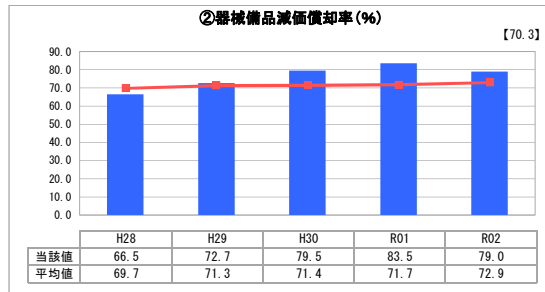
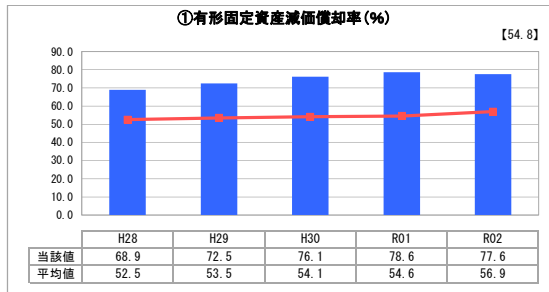
全体総括

これまで急性期医療から慢性期医療までの全ての医療を一貫して担う病院完結型の医療を行ってきましたが、最近、医師の減少により、これまでどおりの医療の提供が果たせなくなってきています。そのため、市内の医療機関と互いに協力・連携しながら地域の医療機関全体で切れ目のない医療を行っていくという地域完結型の医療の実現を目指しています。さらに、地域医療構想区域における三次救急・二次救急を担う基幹病院との連携や、県境を越えた医療連携を強化するとともに、介護老人福祉施設等との連携を深めることで、入院医療から在宅医療等への移行・支援を促進し、住民が住み慣れた場所で自分らしい生活を人生の最期まで安心して送れるように、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。